



平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月13日

上場会社名 AppBank株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6177 URL http://www.appbank.co.jp/  
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 宮下 泰明  
 問合せ先責任者(役職名) 人事総務部長 (氏名) 平林 正樹 (TEL) 03-6302-0561  
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績(平成30年1月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	1,029	△24.4	△220	—	△222	—	△256	—
29年12月期第3四半期	1,361	△23.2	△243	—	△247	—	△323	—

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 △283百万円(—%) 29年12月期第3四半期 △323百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	△37.83	—
29年12月期第3四半期	△48.42	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第3四半期	1,027	445	41.8
29年12月期	1,372	616	44.9

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 429百万円 29年12月期 616百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年12月期	—	0.00	—	—	—
30年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	1,450	△20.7	△349	—	△352	—	△382	△56.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 — 社 (社名) 、除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	30年12月期3Q	6,940,600株	29年12月期	6,798,000株
② 期末自己株式数	30年12月期3Q	15,243株	29年12月期	89,043株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	30年12月期3Q	6,786,337株	29年12月期3Q	6,682,818株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、決算説明資料については、速やかに当社ホームページに掲載する予定であります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、メディア事業とストア事業の2種のセグメントを軸にビジネス展開しております。

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取りまく経営環境におきまして、当社メディア事業の主たる事業内容であるインターネット広告市場は、月次の売上高が年初来連続して前年同期を上回るなど拡大を続けております(注1)。一方、ストア事業の主たる商材に影響のあるスマートフォン端末につきましては、保有期間が長期化し(注2)、国内出荷台数は減少傾向にあります(注3)。スマートフォンアクセサリ販売は、市場の成熟化が指摘されるなか需要が一巡したことによる飽和の顕在化と相まって、厳しい市場環境になっております。

当事業年度、当社は企業体質の強化と業績回復に努めてまいりました。しかしながら、本年8月9日に開示したとおり2018年12月期において大幅な連結経常損失を計上する見通しとなっております。このようななか、本年8月29日に、財務体質の改善及び収益力強化を目的に、第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権の発行を決議いたしました。新株予約権の発行に連動して締結した事業提携先の支援と併せ、経営改善に取り組んでまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,029,042千円(前年同期比24.4%減)、営業損失220,468千円(前年同期は営業損失243,559千円)、経常損失222,797千円(前年同期は経常損失247,755千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失256,714千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失323,586千円)となりました。

(注1) 出所：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」(2018年8月確報版)

(注2) 出所：内閣府「消費動向調査」

(注3) 出所：一般社団法人電子情報技術産業協会「2018年8月携帯電話国内出荷実績」

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

各セグメントの業績数値にはセグメント間の内部取引高を含んでおります。

#### (メディア事業)

メディア事業におきましては、サイト運営、スマートフォンアプリの開発・運営、インターネット動画配信、アドネットワーク運営及びこれらと連動する広告枠販売などのビジネスを行っております。

サイト運営では、中核メディアサイト「AppBank.net」、攻略サイト「パズドラ究極攻略」、「モンスター攻略」などを提供しております。

動画配信の分野では、「YouTube」及び「niconico」を通じて、「マックスむらいチャンネル」「AppBankTV」などにおいて様々なコンテンツを提供・公開しております。「マックスむらいチャンネル」では、反響の多いコンテンツのシリーズ化により視聴回数は回復傾向にあります。

ゴルフに特化した新感覚メディア「ringolf」は、チャンネル登録者数が堅調に推移、8月に視聴者参加型ゴルフコンペ「ringolfオープン2018」開催を発表いたしました。日本各地でのラウンドを通じファンとの交流を図るとともに、動画に加え、アパレルやオリジナルグッズ販売などビジネスの幅を広げております。

営業面では、アドネットワーク分野の広告が増加した一方で、純広告、広告プラットフォーム事業の不振などにより減収となりました。利益面につきましては、製造原価、販売管理費の圧縮に努めたものの、新規事業の開発費用計上などにより概ね前期と同様の営業損失となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント合計では、売上高401,078千円(前年同期比39.2%減)、セグメント損失182,338千円(前年同期はセグメント損失178,029千円)の減収減益となりました。

#### (ストア事業)

ストア事業におきましては、「AppBank Store」のEコマースサイト及び店舗においてスマートフォンアクセサリをはじめとするグッズの販売を行っております。また、スマホユーザーのライフスタイルをより豊かにするために、モバイル保険やiPhone修理などのサービスを展開しております。

Eコマースサイト売上は、「AppBank Store Web店」の顧客ニーズに合った幅広い商品の提供による需要喚起、新規モールへの出店など販売チャネル増による販売機会増に努めました。新規顧客増加などの成果はあったものの、市場が減速する環境下、前年同期を下回る実績となりました。

常設店舗としては、本年7月に「AppBank Store×Sma-cle吉祥寺」をオープンいたしました。スマホアクセサリのセレクトショップとiPhone修理店の併設店が加わった一方、前期に不採算店舗などを閉鎖したことにより、「AppBank Store」常設店舗数は、前年同期の9店舗から6店舗になっております。売上合計はマイナスとなった一方、既存の5店舗はいずれも増収になるなど堅調に推移し、営業利益を確保いたしました。

iPhone修理店「Sma-cle」につきましては、9月末時点で常設店4店舗にインショップ展開の3店舗を加えた7店舗でサービスを提供しております。

営業面では、店舗数減少などにより売上高は減少いたしました。利益面では、営業展開中の常設店舗の営業利益確保、及び販管費圧縮により営業損失は縮小（改善）いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント合計では、売上高646,483千円（前年同期比11.2%減）、セグメント損失39,880千円（前年同期はセグメント損失75,798千円）の減収増益となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産の部）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,027,070千円となり、前連結会計年度末に比べ345,105千円減少いたしました。これは主に、「現金及び預金」が128,876千円減少、「売掛金」が62,936千円減少、「有形固定資産」が42,241千円減少したことによるものであります。

### （負債の部）

当第3四半期連結会計期間末における負債は581,923千円となり、前連結会計年度末に比べ173,314千円減少いたしました。これは主に、「買掛金」が19,910千円減少、「長期借入金」が119,979千円減少したことによるものであります。

### （純資産の部）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は445,147千円となり、前連結会計年度末に比べ171,791千円減少いたしました。これは主に、「親会社株主に帰属する四半期純損失」を256,714千円計上したことによるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成30年8月9日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	924,886	796,010
売掛金	169,477	106,541
商品	78,508	62,930
原材料及び貯蔵品	3,460	3,522
その他	49,989	18,719
流動資産合計	1,226,322	987,723
固定資産		
有形固定資産	42,241	—
無形固定資産	30,170	—
投資その他の資産		
投資有価証券	29,999	0
長期未収入金	148,691	147,881
その他	43,441	39,346
貸倒引当金	△148,691	△147,881
投資その他の資産合計	73,441	39,346
固定資産合計	145,853	39,346
資産合計	1,372,176	1,027,070
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	97,795	77,884
1年内返済予定の長期借入金	182,434	164,135
資産除去債務	1,619	—
未払法人税等	5,683	3,531
その他	110,174	98,395
流動負債合計	397,706	343,946
固定負債		
長期借入金	343,411	223,432
資産除去債務	14,119	14,545
固定負債合計	357,530	237,977
負債合計	755,237	581,923
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	99,850	125,434
資本剰余金	312,721	354,468
利益剰余金	207,002	△49,712
自己株式	△3,493	△598
株主資本合計	616,080	429,592
新株予約権	858	9,797
非支配株主持分	—	5,757
純資産合計	616,938	445,147
負債純資産合計	1,372,176	1,027,070

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	1,361,787	1,029,042
売上原価	923,065	663,336
売上総利益	438,721	365,705
販売費及び一般管理費	682,280	586,173
営業損失(△)	△243,559	△220,468
営業外収益		
受取利息	246	52
受取配当金	4	3
還付加算金	1,398	186
貸倒引当金戻入額	—	810
雑収入	404	184
営業外収益合計	2,052	1,236
営業外費用		
支払利息	5,279	3,220
雑損失	968	345
営業外費用合計	6,248	3,565
経常損失(△)	△247,755	△222,797
特別利益		
新株予約権戻入益	30	9
固定資産売却益	166	500
特別利益合計	197	509
特別損失		
減損損失	33,321	56,964
固定資産売却損	—	189
固定資産除却損	—	365
賃貸借契約解約損	23,796	—
特別損失合計	57,118	57,518
税金等調整前四半期純損失(△)	△304,675	△279,807
法人税、住民税及び事業税	3,210	2,321
法人税等調整額	15,699	1,089
法人税等合計	18,910	3,410
四半期純損失(△)	△323,586	△283,218
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△26,503
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△323,586	△256,714

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純損失(△)	△323,586	△283,218
四半期包括利益	△323,586	△283,218
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△323,586	△256,714
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△26,503

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年9月30日)

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により、資本金及び資本準備金がそれぞれ25,584千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が125,434千円、資本剰余金が354,468千円となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	656,756	705,030	1,361,787	—	1,361,787
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,860	23,187	26,048	△26,048	—
計	659,617	728,218	1,387,835	△26,048	1,361,787
セグメント損失(△)	△178,029	△75,798	△253,828	10,269	△243,559

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額10,269千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア事業」において、本社移転を決定したことに伴い、本社資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16,554千円であります。

また、「ストア事業」において、閉店が決定した店舗の固定資産について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては16,767千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア事業	ストア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	399,898	629,143	1,029,042	—	1,029,042
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,179	17,339	18,519	△18,519	—
計	401,078	646,483	1,047,561	△18,519	1,029,042
セグメント損失(△)	△182,338	△39,880	△222,218	1,750	△220,468

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額1,750千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「メディア事業」において、本社固定資産の減損損失17,054千円を計上しております。

「ストア事業」において、店舗及び共用資産について減損損失39,910千円を計上しております。

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使)

当社が平成30年9月14日に発行した第4回新株予約権(第三者割当による行使価額修正条項付新株予約権)について、平成30年10月1日から平成30年10月31日までの間に一部の権利行使がありました。

その概要は、以下のとおりです。

- (1) 発行した株式の種類及び株式数 普通株式 304,400株
- (2) 増加した資本金の額 59,873千円
- (3) 増加した資本準備金の額 59,873千円

これにより、平成30年10月31日現在の資本金は185,307千円、資本準備金は185,207千円、発行済株式総数は7,245,000株となりました。